

1 事業の目的

耐震化 第1～第3浄水場すべて耐震性能が不足

経年劣化対策 昭和46年に供用開始した第1浄水場など劣化が進行

機能の向上 高濁への対応力強化、浸水等の災害対策、部分停止可能なシステムの構築など

2 事業の概要

(1)新浄水場の建設

- 既存浄水場の改修時に不足する供給能力を補う
- 浄水処理方式は、従来と同様の急速ろ過(砂ろ過)方式

(2)既存浄水場の改修

- 新浄水場の建設後、既存浄水場を休止して改修し、最終的に既存浄水場のいずれかを廃止

(3)新取水導水施設の建設

- 取水を継続しながらの改修が困難なため、藻岩ダム湛水域に新取水口を建設
- 藻岩ダムの維持管理作業時などの水位低下に備え、予備の取水口を建設

3 事業スキームの見直し

ビジョン策定時

- 全体を1つのスキームで検討

白川浄水場改修事業

新浄水場の建設 ・ 新取水導水施設の建設 ・ 既存浄水場の改修



ビジョン改定時

- 事業期間を分けて進める

白川浄水場**第1期**改修事業

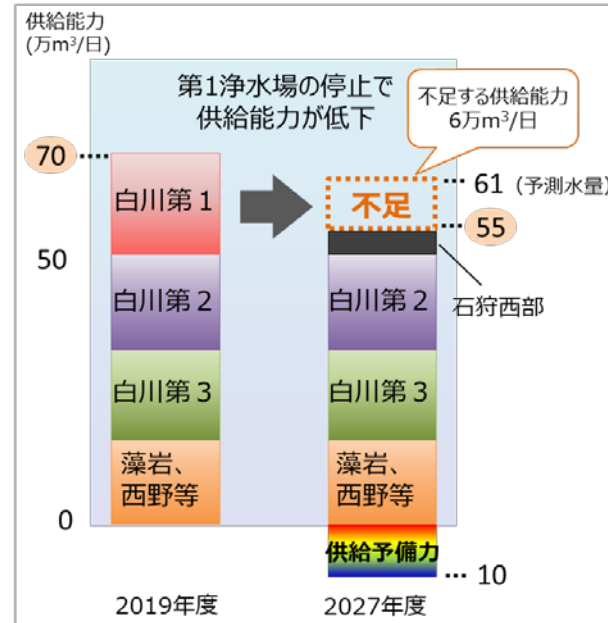
新浄水場の建設 ・ 新取水導水施設の建設

白川浄水場**第2期**改修事業

既存浄水場の改修

4 第1期改修事業の概要

(1)新浄水場の給水能力



供給予備力の考え方

- 他浄水場へのバックアップ機能がある白川浄水場に確保
- 自然災害、事故・故障などによる供給能力の低下、他浄水場の処理停止への備え
- 藻岩浄水場の改修などを考慮し、10万m³/日に設定

不足する供給能力 + 市全体の供給予備力 = 新浄水場の給水能力

ビジョン改定時 6万m³/日 + 10万m³/日 = 16万m³/日

ビジョン策定時 10万m³/日 + 10万m³/日 = 20万m³/日

(2)事業費とスケジュール

- 完了年度は2027年度の見込み
- 事業費は約400億円を想定



概念図

